



第16回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー

WS-09 「フレイルに負けない攻めの栄養療法 -多職種でシンプルに考えて協働する-」

【講師】

小坂鎮太郎（板橋中央総合病院総合診療科）

松本 朋弘（練馬光が丘病院総合診療科）

廣瀬 桂子（練馬光が丘病院栄養室室長）

榎本 貴一（練馬光が丘病院薬剤室）

奥山 篤（板橋中央総合病院総合診療科）

高齢化社会が実現する中で生命寿命のみならず健康寿命とその生活の質をどのようによくなるかが鍵になっている。疾患のみならず、その影響からくる病いとの過ごし方を補助することが総合診療医の役割の1つとなると考える。

栄養療法は生命予後を左右する治療というよりは、QOL や ADL、合併症減少といった過ごし方を快適にするアウトカムに親和性が強い。特に、早期発見・治療という点においては、外来や急性期病棟におけるプライマリケア医の初療が大きな影響を及ぼすと考ええる。

この WS では、栄養療法の効果とシンプルな考え方を概説し、栄養士、療法士、薬剤師、看護師、歯科医師、医師といった多職種でフレイルをどのように克服すればいいかという考え方を、講義と症例検討を通じて体得してもらうことを考えている。

初学者から指導者まで幅広い参加者をお待ちしています。